

症例報告

サッカー少年の抜毛症に対する小児鍼

平成 28 年 1 月 28 日
杉並支部 岩元 健朗

ストレスがたまり怒りっぽく、前頭部の毛髪を抜く抜毛の症状に対して、自律神経を整え精神の安定をはかり、抜毛行為を無くし、発毛を目的に治療を行った症例である。

症 例 10 歳 男子 小学 4 年生

初 診 平成 27 年 7 月 24 日

主 訴 前頭部の脱毛。ストレスがたまって怒りっぽい。

現病歴 サッカーは小学 1 年生からしている。小学 4 年生になった頃、キーパーばかりする事となり、その事がイライラのもとになった。平成 27 年 4 月頃、所属しているサッカークラブチームで子供同士のトラブルがあり、一度に前頭部の髪の毛が抜けた。その後、日常的に頭が痒くて搔いてしまい、髪の毛が抜け、前頭部の脱毛状態が続いている。抜毛は無意識のうちに行い、本人は抜いている意識はない。母親からは「家では抜いていないようだが、サッカーをしている時に抜いているところをコーチが見ていて、報告を受けたことがある。イライラすると抜いているようだ。本人は髪が勝手に抜けてしまうと話している」。他にイライラしたことは、ドミノを 2 時間かけて作って、あと 1 個のところまで先生が触れて全部倒してしまった時、あともう少しで出来そうところで邪魔されるとイライラする。心窩部と季肋部に張る感じがあり、自分でよく押している。押すと気持ちがいい。合谷、魚際、大陵、内関も自分で押している。脱毛して 4 月に皮膚科を受診したところ、「毛根が残っているので自分で抜いていることが原因で脱毛している」と言われて、抜毛症と診断を受けた。治療は保湿剤の塗り薬が出た。気休めのような塗り薬だった。その後医者に行っていない。当院に父（腰痛、頸肩痛）、母（^{内臓}肩痛・月経前症候群・イライラ感）、妹（寝付きが悪い）が受診しており、家族のすすめで来院する。スポーツはサッカーを週 5 日、水泳を週 1 日。特にサッカーは父が中学校のサッカー部を指導しているので、休みの日は父とサッカーをしているので週 7 日のこともある。サッカーは楽しい。

既往歴 特記すべきことなし。

家族歴 母のイライラ感、妹の寝付きが悪い。

診察所見 身長 139 cm、体重 28kg 前頭部の脱毛部位（図 1・写真 1）は正中線を中心にして三角形をしている。心窩部と季肋部の張り感がある部位は硬結部位や圧痛点は無い。
診 断 前頭部の脱毛症。イライラしやすく易刺激性・易怒性から疥虫症^{1) 2)}と判断する。
対 応 みぞおちや肋骨の下の部位の張った感じは心因的ストレスにより発症する症状です。イライラ感や怒りっぽさが続くと脱毛などの症状を出す場合があります。小児鍼はイライラ感を押さえて、情緒を安定する効果があります。精神の安定が得られることで怒りっぽさや脱毛の症状が改善されることが期待できます。小児鍼は皮膚を介した気持ちの良い刺激

となりますので、痛みはありません。根気よく治療を続けてみて下さい。

治療・経過

第1回(7月24日・1日目)小児鍼【大師流三稜鍼³⁾(写真2)】、鍔鍼【A(写真3)・B(写真4)】を用いて施術する。仰臥位で上肢・胸部・腹部・下肢・頭部、腹臥位で後頭部・後頸部・肩背部・腰部に小児鍼を行う。鍔鍼Aで大椎・身柱・肺俞・厥陰俞・肝俞・腎俞に施術。仰臥位にて鍔鍼Aで合谷・内関・中府・壇中・中腕・関元・百会・四神聡・太陽。鍔鍼Bで脱毛部に施術する。施術時間10分間。

第2回(7月27日・3日目)母親より前回の治療の翌日に37℃の発熱があった。午前中のサッカーと午後の水泳を休ませた。発熱することがあるのかと質問を受ける。(回答)発熱する事はあります。その日の夕方に発熱する事が多いのですが、翌日に発熱することもあります。ここに来たことも始めてだったので、そのことが潜在意識の上で緊張していて、反応を強く出していることが考えられます。また、緊張している身体や肌が緩むとき、だるさや発熱となることがあります。その場合はゆっくり休ませていただければ大丈夫です。脱毛部分の毛根から毛が出ている。前回よりも黒い毛が長く伸びてきている。新たに抜けた痕は無い。脱毛部が目立たないように中央で分けなくて、少し横で分けて脱毛部が隠れるようにしている。前回と同様に治療を行う。

第3回(8月1日・7日目)前回の治療後、体がだるく熱を測ったら37.1℃あった。治療をすると微熱が出るとのことだったので治療前に体温を測ったところ37.1℃あった。治療したから上がったわけではないと思われる。前回の治療に解熱の処置(手足の井穴と耳尖穴)を加える。治療後の体温は36.8℃であった。

第4回(8月8日・14日目)今朝37.4℃。昨夜、妹とケンカして呼吸が荒くなりヒキツケの症状が出た。前髪は伸びているが脱毛部の頂が脱毛が進んでいる状態。脱毛していた場所は発毛して発育しているが、新たな脱毛部位がある(写真5)。前回と同様の治療。

第5回(8月24日・30日目)脱毛部に成長期の毛が育っている(写真6)。怒りが減っている。妹と一緒にいてケンカが減っている。前回同様に治療を行う

第6回(9月11日・48日目)「前回治療後に微熱が出たので、解熱のツボもお願いします。」前頭部の脱毛部、生えている(写真7)。治療前36.9℃、治療後36.9℃。前回同様の治療。

第7回(10月7日・74日目)前回治療後37.5℃の微熱があった。昨夜、父親が厳しく怒った。その後、机にうつ伏せになり、頭が痒くなり毛が抜けた。そろそろ治療に行こうと思っていたところだった(母親より)。治療前36.7℃、治療後36.6℃。

第8回(10月17日・84日目)治療前36.9℃、治療後36.8℃。前回同様の治療。「2~3日前、イラっとしている。カーとなったりすることは無かった(母親)」。前頭部が痒くなるので意識して叩いて搔かないようにしている。脱毛三角部の先端が少し抜けている。今回は髪の状況は少し悪化傾向(図2)。

第9回(10月27日・94日目)治療前37.0℃、治療後36.7℃。前回同様の治療。散髪に行ってスッキリ。短めにしても脱毛部が目立たなくなっている。前回の脱毛三角部の先端は生えてきている。髪際の毛は太くなっている。「最近、サッカーでシュートが決まらなくなっている。禿があった時の方がシュートが決まったと思う。」怒りやイライラし

ていた方が点が取れているように思うとのこと。怒りの感情でサッカーをするのではなく、冷静な気持ちでプレーをして確実なサッカーで点が取れることが大切と伝える。

第10回（11月14日・110日目）治療前36.8℃、治療後36.9℃。前回同様の治療。

頭全体か痒い（写真8）。小学1年生の時に9人からいじめられた。先生が対応してくれなかったので母親が出た。その後、いじめはなくなった。小学4年生ではクラスで嫌な奴が4～5人いる。学校では15人ぐらいいる。今回治療後、体温が上がったのは過去の嫌なことを思い出したことが原因と考えられる。

第11回（12月2日・128日目）今日、自宅でイライラ。母親と口論をした。サッカーに遅れるということで促がされた。荷物がうまく準備できなかったのでイライラ。母親が外出中に明日の妹の誕生日プレゼントを作っていたら妹が入ってきた。隠して作っていたので、それでイライラ。前回同様の治療。

第12回（12月11日・137日目）学校でイライラ。妹のプレゼント作りは途中で捨てた。（写真9）

第13回（12月21日・147日目）鼻血が出た。イライラ時々あり。三角形の頂点が薄くなっている。

第14回（12月26日・152日目）2回ばかり強くイライラして怒ることがあった。前回の三角形の頂点が薄くなっていたが、今日は髪がしっかりしている（写真10）。

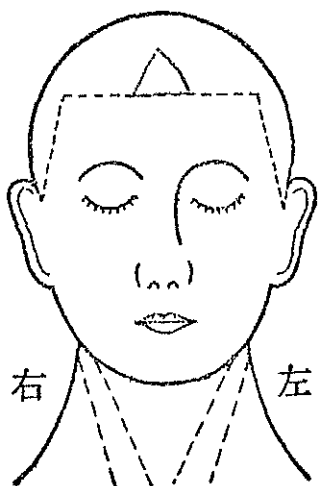
第15回（平成28年1月16日・173日目）学校ではイライラ感が変わらずある。生意気同士で言い合いがある。毎日イライラ。前頭部の髪は現在とても良い状態（写真11）。前回と同様の治療。

考察 現病歴と診察所見から主訴の怒りっぽいことと前頭部の脱毛はストレスからの疥虫症の症状と考えて、小児鍼で治療する方針を立てた。小児鍼により身体の反応が良く、最初の治療の効果を2回目の来院時に確認する事が出来た。体温が上昇して微熱が出る傾向にあったが、解熱のツボを使うことで体温の上昇を防ぐことが出来た。ただし、治療中に過去の嫌な思い出やイライラしたことに触れると解熱の効果が発揮できないことが分かった。怒りの感情が非常に強く、日常の生活でイライラする事や過去の嫌なことを思い出すと、気を上昇させ、体温を上げ、頭皮に痒みを出し、抜毛に繋がったと考える。心窩部や季肋部の張り感は心窩痞硬⁴⁾・胸脇苦満⁴⁾にあたり、心の病証と肝の病証である。ストレスを感じ思い悩むことが心窩痞硬となり、怒りが胸脇苦満の症状を出している。心窩痞硬・胸脇苦満が気滞となり熱を発生し、心熱・肝熱の上昇が抜毛の行為を起こしていると推定される。

成書では抜毛癖⁵⁾（トリコチロマニー）とは毛を引き抜く癖から発症する脱毛で、子供に多い。指で毛を引き抜くために前頭部から側頭部にかけて脱毛部分が発生する。注意深く脱毛局部を観察すると残っている毛髪は成長期毛であり、抜かれた毛も成長期毛である。発症の背後に心因性の要因があるので治療に当たっては心理療法などのサイコセラピーが必要とある。また、疥虫症¹⁾とは俗語であるが広義に解すれば非常に多くの症状を含むが、狭義には乳幼児特に離乳期前後に多い小児神経症のことで、症状は不機嫌、夜泣き、不眠等の神経症状がみられる。

症例は小学4年生で乳幼児ではないので狭義の疳虫症には当てはまらないが、広義に解釈して神経症として対応した。小児鍼を行うことで皮膚と筋肉の緊張を緩め、心の緊張を解くことが情緒の安定をはかり、怒りの感情を鎮めることに繋がり、抜毛の行為を防いでいると考える。怒りの感情が非常に強く、コントロールできないと症状として抜毛行為として現れる。現在、毛髪状態は安定しているがイライラ感は続いている。毎月治療を継続して心身の安定をはかることが大切と考える。

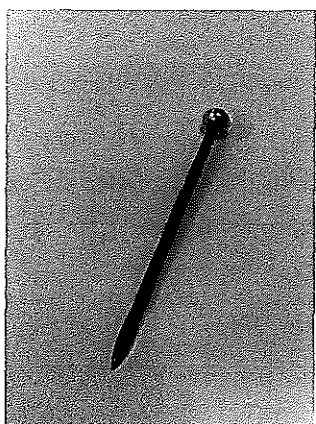
- 参考図書 1) 『小児針法』 p61 米山博久・森秀太郎 共著 医道の日本社
 2) 『大師流小児鍼』 p80 谷岡賢徳 著 六然社
 3) 『わかりやすい小児芯の実際』 p12 谷岡賢徳 著 源草社
 4) 『東洋医学大辞典』 p191 大塚恭男 木村雄四郎 間中喜雄 講談社
 5) 『鍼灸療法技術ガイドII』 p460 編集主幹 矢野 忠 文光堂



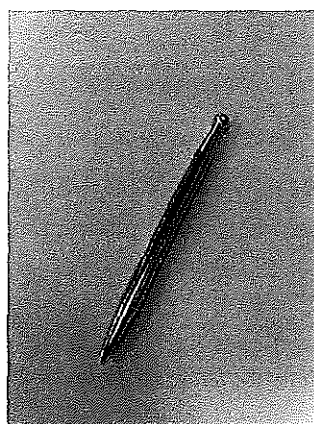
(図1) 前頭部の脱毛部位



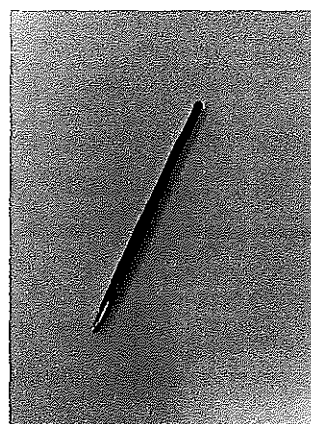
(写真1) 初診時の脱毛部位



(写真2) 大師流三稜鍼



(写真3) 鍬鍼 A



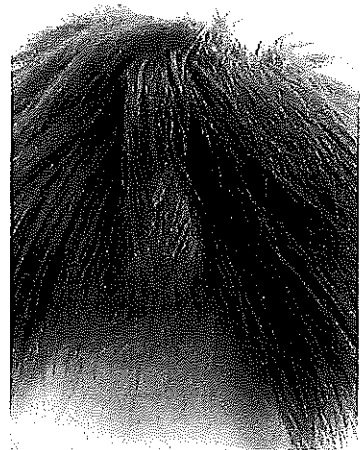
(写真4) 鍬鍼 B



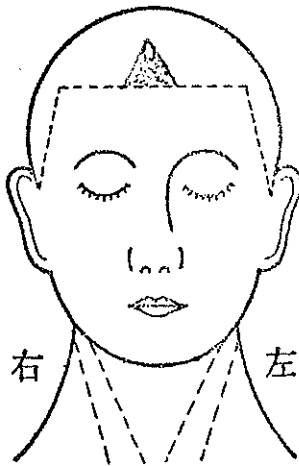
(写真5) 8/8 4回 14日目



(写真6) 8/24 5回 30日目



(写真7) 9/11 6回 48日目



(図2) 10/17 8回 84日目



(写真8) 11/14 10回 110日目



(写真9) 12/11 12回 137日目



(写真10) 12/26 14回 152日目



(写真11) 1/16 15回 173日目